

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 5 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530160

研究課題名（和文）東南アジアにおけるトラック2とトラック3チャンネルとの競合的協調関係の考察

研究課題名（英文）Collaboration and Contestation among Track 2 and Track 3 Actors in Southeast Asia

研究代表者

重政 公一 (SHIGEMASA KIMIKAZU)

関西学院大学・国際学部・准教授

研究者番号：20362600

研究成果の概要（和文）：東南アジア諸国連合（ASEAN）加盟国の非国家的行為主体をトラック2（シンクタンク連合）とトラック3（市民社会アクター）に分類し、それぞれのトラック間の特徴、相互作用に特徴を見出した。政府間機構への関与の様式、ASEANが憲章を履行するうえでもっともこうした非国家的行為主体が活発な論議、行動を展開できる人権の分野とこれまでトラック2で展開されてきた安全保障協力分野の交差する領域を研究した。とりわけトラック2とトラック3アクターが時には競合し協調するアドボカシーを展開する過程を「水平対話」モデルを援用し分析を行った。

研究成果の概要（英文）：The Association of Southeast Asian Nations (ASEAN) is considered as a hybrid organization that encompasses various channels or tracks. This research illuminates the non-official or non-governmental aspects of this organization, namely the think-tank based research network (track 2) and civil society organizations. It reveals that track 2 and track 3 actors have employed different approaches to engage with track 1 governmental organization (ASEAN) in their dealings with the areas of human rights and security cooperation. The author utilizes a 'horizontal dialogue' model to examine nurturing trust as well as conflicting advocacy conducted by both track 2 and 3 channels.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	500,000	150,000	650,000
2012年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,700,000	510,000	2,210,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学、国際関係論

キーワード：ASEAN、トラック2、シンクタンク、トラック3、市民社会、ASEAN憲章、ASEAN政府間人権委員会

1. 研究開始当初の背景

(1) 殆どのASEAN諸国にはASEAN-ISIS(ASEAN戦略問題研究所群)とよばれるトラック2のシンクタンクが存在する。このトラック2はアジア太平洋域外のカウンターパートと結びつき、アジア太平洋安全保障協力会議

(CSCAP)を展開してきた。

トラック2のネットワークの充実はASEANの一つの強みである。多国間安全保障協力の分野でCSCAPを分析し、ASEAN-ISISの制度的発展を安全保障分野、人権分野から考察する。

(2) ASEAN 憲章が 2007 年に調印され、翌年批准された。同憲章策定にアクターに関わるトラック 1 アクターに対するトラック 2、トラック 3 との接触、相互作用を国際関係論のアプローチに加え、社会関係資本、社会運動論からのアプローチを援用することで考察する。またこのアプローチは同憲章に基づき ASEAN が地域人権機構を設立する際にも分析枠組みとして用いる。

2. 研究の目的

(1) 東南アジアの安全保障、人権といった比較的新しい課題の分析はこれまでのトラック 1 政府間機構によるものに加えて、非国家的行為主体からのアプローチも重要である。ASEAN-ISIS や CSCAP というトラック 2 を中心にアイデアの伝播がトラック 1 や市民社会アクターであるトラック 3 へどのように拡散、波及していくかを分析する。

(2) 2007 年の ASEAN 憲章調印から翌年の批准に至る過程はこうした ASEAN のトラック 2 やトラック 3 の活動の試金石になった。この過程で非国家的アクターは様々な形態でアドボカシーを展開し、成功、失敗を体験した。この経験は ASEAN 憲章第 14 条規定に政府間人権機関設立に至る過程で再びアドボカシーを展開した。このアドボカシーの実体は何か、またアドボカシーの戦術は何かを捉える。

(3) ASEAN 世界のなかで、トラック 1 とトラック 3 とのインターフェイスは限られていた。ASEAN 市民会議 (APA) は ASEAN-ISIS が試みたトラック 1 とトラック 3 とを結びつける橋渡しの事業であった。この APA も功績と批判 (とりわけ、トラック 3 からトラック 1 に対するもの) が多く論議されたが、こうした対話のフォーラムを実践できた意義は決して小さくない。すべてのトラックを包摂する分類を行い、それぞれの特色を浮き彫りにし、理論的考察を加える。

3. 研究の方法

(1) ASEAN-ISIS や本研究で取り上げるさまざまなトラック 3 アクターからの公刊資料、書籍の内容調査に加えて、オーラル・ヒストリーの手法を参考にした。APA や ASEAN-ISIS に関与したトラック 2 機関の関係者には年次を越えて質問の内容を変えて行った。

(2) 研究初年次より ASEAN 事務局 (トラック 1 機構としての ASEAN) で市民社会アクターと対峙する部署での聞き取り、ジャカルタ (インドネシア) では国際戦略問題研究所、Human Rights Working Group、Human Rights Resource Centre、クアラルンプール (マレーシア) では戦略問題研究所、バンコク (タ

イ) ではチュラロンコン大学、マヒドン大学、Forum-Asia、マニラ (フィリピン) ではマニラ大学、アテネオ・デ・マニラ大学、Working Group for an ASEAN Human Rights Mechanism を主たるハブ調査対象として(1)で説明した調査を行った。

また、2009 年から第一期の活動を始めた ASEAN 政府間人権委員会 (AICHR) のインドネシア、タイの政府代表に聞き取り調査を行った。

(3) 非国家的行為主体の「武器」であるアドボカシーはその対象であるトラック 1 政府間アクターとの関係性を無視しては説明できない。対話、協議とアドボカシーの関係を概念的に分析するための理論的考察を国際関係論、社会学から得られた競合と協調が併存する関係を規範、信頼醸成、ネットワーキングを鍵概念とし、多主体が織りなすマルチ・トラックガバナンスにおける水平対話として、階層的な垂直対話に代わるモデルとして提示しアドボカシーの展開を把握する。このため国際関係理論では、社会構成主義、私的権威アプローチ、社会学からは社会関係資本、社会運動アプローチなどを援用した。

4. 研究成果

(1) ASEAN 憲章策定、調印、批准に至る政治過程および ASEAN 政府間人権機関設立に至る政治過程の分析を通して、不承不承ながらもリベラル的な価値観を導入しようとする ASEAN (トラック 1)、トラック 1 とトラック 3 との橋渡しを行う ASEAN-ISIS (トラック 2)、またトラック 1 への知的貢献を ASEAN 憲章の草案提示などで行う私的権威的作業を行う実態、批判的関与を通じてトラック 1 へ様々なカウンタープロポーザルを提示し、公開書簡で意図を問う直接的対抗手段などが浮き彫りになった。

しかし、ASEAN そのものが緩やかに変化しているとはいえ、トラック 2、トラック 3 アクターの要請は受容されることはほとんどなかった。この原因は政府、官僚機関であるトラック 1 とそれ以外のアクターとの文化の違いもあるが、双方が直接的接触の機会を持つ機会が限られていること、ASEAN と市民社会アクターとの関与ガイドラインがあまりに保守的であり、ASEAN が認定している市民社会アクターのみがこの直接的な接触を持てることが主たる原因である。

Table.1 ASEAN's multi-track structure over human rights issues

Channel	Actors
Track 1	<ul style="list-style-type: none"> • Summit(Heads of government) • Coordinating Council/AMM • Sectoral Ministerial Body • AICHR • ACWC • SOM • member country national governments • ASEAN Secretariat
Track 2	<ul style="list-style-type: none"> • ASEAN- ISIS network • Working Group for an ASEAN Human Rights Mechanism • Rights Mechanism • Human Rights Resource Centre, etc.
Track 3	<ul style="list-style-type: none"> • national/ regional CSOs • coalition of national human rights NGOs • (Solidarity for Asian Peoples' Advocacy, its national focal points, members, Forum- Asia, Southeast Asian Committee for Advocacy), etc

Channel	Engagement modality
Track 1	<ul style="list-style-type: none"> • reluctant liberalism • selective engagement • primacy of sovereignty and non-interference in other country's domestic issues
Track 2	<ul style="list-style-type: none"> • bridge- building between Track1 and Track 3 actors • anxious to provide policy advice and inputs to track 1
Track 3	<ul style="list-style-type: none"> • critical engagement • alternative, 'bottom - up advocacy • human rights gatekeepers and watch dogs; normative transmitter • lobbying • refereeing • authorship

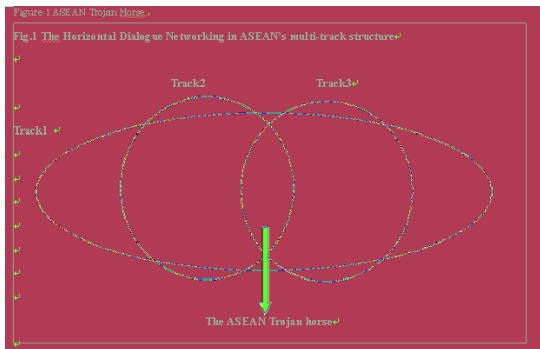
Channel	Schemes
Track 1	<ul style="list-style-type: none"> • decision- making guidance, and direction of human rights promotion and protection as stipulated in the Charter and TORs for AICHR and ACWC • occasional national and regional consultations with stakeholders, including CSOs, NGOs
Track 2	<ul style="list-style-type: none"> • ASEAN People's Assembly (APA) • ASEAN- ISIS Colloquium on Human Rights (AICOHR) • occasional joint seminars with CSOs
Track 3	<ul style="list-style-type: none"> • CSO/ NGO networking (ACSC/APF) • occasional direct dialogue with Track1 • publications of assessment report', proposals for modified (or alternative) submissions • public education through internet • communication

(2) 様々なトラック間の相克はアドボカシーの相違になって現れた。ASEAN に対して最もアドボカシーが効果的に発揮できる場合は、ASEAN との協働作業を行う場合であり、国際関係理論の私的権威アプローチのなかでいう「執筆代行」の役わりを演じる時である。この執筆代行は ASEAN が 2000 年から Working Group for an ASEAN Human Rights Mechanism に対して、(いつかは来る) 地域人権機関の草案を依頼し、後者がそれを支えてきたことに見られた。こうした公的私的パートナーシップが ASEAN の堅いトラック 1 の文化を変化させる可能性をもつと考えられる。

(3) 従来の NGO/NPO と国家との位置づけは階層的な垂直構造である。しかし、ASEAN 内のマルチトラック・アクターの分析では接触面が限られてはいるが、水平的に視点を変化させなければ、民主主義、人権、法の支配といった新しい価値観を持つ ASEAN の姿を把握できない。水平対話はこうした多主体間の信頼醸成、絆を紡ぐ構図として ASEAN 全体の課題のなかで、とりわけ一般大衆に関わる人権分野において萌芽的である。

(4) (2)と(3)からトラック 1 とそれ以外のチャンネルとの対話、協議において高い ASEAN の「敷居」を下げるためには私的権威をトラック 2, トラック 3 が有効に活用しつつ、ASEAN と共有できる知識、知見を相互に構築していく様式が望ましいことがわかる。言い換えれば、「共感」できる値を高めることにつなが

ろう。実際、人権分野において政府間委員会内ではこうしたトラック2，トラック3からも政府代表に就任した人物もあり、内部からトラック2，トラック3を活用し、水平対話のなかで共感値を高めることができる。



5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計3件)

① 重政公一、「境界線上の世界遺産保護をめぐるセキュリティ/排除の政治言説の構築—プレアピヒヤ寺院を事例にして」、査読なし、『関西学院大学先端社会研究所紀要』第9号、2013年、pp1-19

② 重政公一、「東南アジアにおけるトラック2とトラック3チャンネルとの競合的協調関係」、査読有り、『国際政治』第169号、2012年、pp. 60-72

③ 重政公一、「アジア太平洋安全保障協力会議 1994-2003年-3つのタイプからみたトラック2の実践」、査読なし『大妻比較』第11号、2010年、pp.30-43

[学会発表] (計3件)

① 重政公一、「世界遺産プレアピヒヤ寺院をめぐるセキュリタイゼーション、ディセキュリタイゼーション-2008年のカンボジアによる世界遺産登録以降を中心に」日本国際政治学会研究大会、2012年10月21日、名古屋国際会議場

② Shigemasa Kimikazu, “Long Duree of Confidence Building in Southeast Asia: ASEAN, Civil Society and Human Rights” 2nd international conference on Human Rights and Peace & Conflict in Southeast Asia, 17 October 2012, Jakarta (Indonesia)

③ 重政公一、「アジア太平洋地域におけるトラック2チャンネルによるセキュリティー・ガバナンスの構築—ASEAN-ISIS、CSCAPを中心に」日本国際政治学会研究大会、2010年10月30日、札幌コンベンションセンター

[図書] (計1件)

① Shigemasa Kimikazu, “Long Duree of Confidence Building in Southeast Asia: ASEAN, Civil Society and Human Rights in Southeast Asian Human Rights Studies Network (ed.) *Human Rights and Peace in Southeast Asia* Vol.2 掲載確定

6. 研究組織

(1) 研究代表者

重政 公一 (SHIGEMASA KIMIKAZU)
関西学院大学・国際学部・准教授
研究者番号：20362600

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：